

論文内容の要旨

氏名	松村 八千代
Orthostatic hemodynamics in the vertebral artery and blood pressure in patients with orthostatic dizziness/vertigo (和訳) 起立性めまい患者における起立時の椎骨動脈血流動態と血圧	

論文内容の要旨

【目的】

起立性めまい(ODV)は、日常診療でよく見られる症状であり、一般に起立性低血圧(OH)による脳の低灌流により生じると考えられているが、実際の詳細な発症メカニズムは分かっていない。一方、椎骨動脈(VA)は、中枢前庭系に血液を供給していることから、起立によりその血流が低下すると起立性めまいを発症する可能性がある。そこで今回、ODV患者における起立時の血圧とVA血流動態について調べ、また、VA血流動態に対するOHの影響についても検討した。

【対象と方法】

当科めまい外来を受診しためまい症例のうち、起立性めまいを有するODV症例181例と起立性めまいのないコントロール症例73例を対象とした。全対象症例に対して起立血圧検査と頭蓋外超音波ドップラー検査を行い、臥位と立位(起立3分後)での血圧と両側VA血流速度を測定した。起立性低血圧は、起立3分以内に収縮期血圧20mmHg以上または拡張期血圧10mmHg以上の低下を示す症例とした。VA血流動態の評価には、両側VAの平均血流速度(VAFV)と、起立によるVAFV低下量(Δ VAFV)を用い、ODV症例とコントロール症例を比較した。

【結果】

ODV症例の Δ VAFVは 2.0 ± 0.4 cm/sで、コントロール症例は 0.04 ± 0.5 cm/sであり、ODV症例はコントロールと比較して有意に大きなVA血流低下を認めた。

ODV症例において、OHを有する症例のVAFVは、臥位 13.8 ± 1.2 cm/sから立位 11.5 ± 0.9 cm/sに低下し、OHのない症例のVAFVは、 15.9 ± 0.5 cm/sから 13.9 ± 0.5 cm/sに低下した。OHを有する症例はOHのない症例に比べ、立位で有意な低値を示した。

OHを有する症例において、ODV症例とコントロール症例の Δ VAFVはそれぞれ 2.3 ± 1.0 cm/sと 0.5 ± 1.1 cm/sで、ODV症例で大きな低下を示した。一方、OHのない症例では、ODV症例とコントロール症例の Δ VAFVは、それぞれ 1.9 ± 0.4 cm/sと -0.03 ± 0.6 cm/sで、ODV症例はコントロールと比較して有意なVA血流速度の低下を示した。

【結論】

今回の我々の研究から、ODVの発症には起立によるVA血流の低下が深く関与していることが示唆された。また、起立時のVA血流動態にはOHのみならず、何らかの因子が関与している可能性が示唆された。